

5441 <sup>げーぶる</sup> 迎古の日本再発見の旅：心模様・歴史の資料を紐解く <sup>ひも</sup>

.....

故郷京都に帰郷。中山道の旅の以前から、日本の資料を取り出し、取材していた。  
月刊「京都」。1979年、古い資料だが、毎月特集があって、気まぐれに、暇な時に見ていた。  
そのタイトルに興味があって、取り出した次第。日本文化の資料もいろいろ。



左から、特集は「京の宿」・旅籠・350選。「京のお弁当」。「追慕旅心」歌のある風景。  
文化鑑賞のてびき「花の寺」。「書之美」。み仏のふるさと「若狭路」。  
秘められた「京の寺」。秘められた「京の冬の旅」。      ～～今昔を知るのも興味深い～～



特集「山の寺」。秘められた京の美をたずねて「京の冬の旅」。特集「京人形」。「精進料理」。  
特集「茶道具」抹茶・煎茶。「西国かんのん巡礼の旅」。「深秋の隠れ里」。「茶懐石」。  
その他いろいろ。写真だけ見るのも、気づきがあって、表題も興味深い。

## ～～山はみどり 野に花 人にはこころ～～



特集「石仏巡礼」。「近江路」。特集「祇園」。合掌のこころ。特集「紅葉路」。

特集「京の能のものがたり」。「華道」花のこころ。特集「茶室と庭」。

私は門外漢だが、親父殿が仕事柄、話をしていた幼少の記憶があるので、興味がある。

下記の資料もあったのが、その他いろいろ、無意識に影響したのかもしれない。



親父殿は多忙。私も忙しく、会話がなかっただけに、今となっては、懐かしい。

<sup>よわい</sup>歳を経た今、感じる。当時、そんな思いや背景もあって、中山道の旅、出発した次第。

何があっても、なんとしても、厳しいのは百も承知だが、貫徹したいと思った。

<sup>おやじ</sup>親父殿に感謝。人生、重荷を背負って、遠き坂道を上るがごとし。

人生、いろいろなことがある。徳川家康の言葉が、脳裏に思い浮かんだ。